
新型コロナウイルス感染症にかかる 県内の感染動向等について

対象期間 12月12日～12月18日

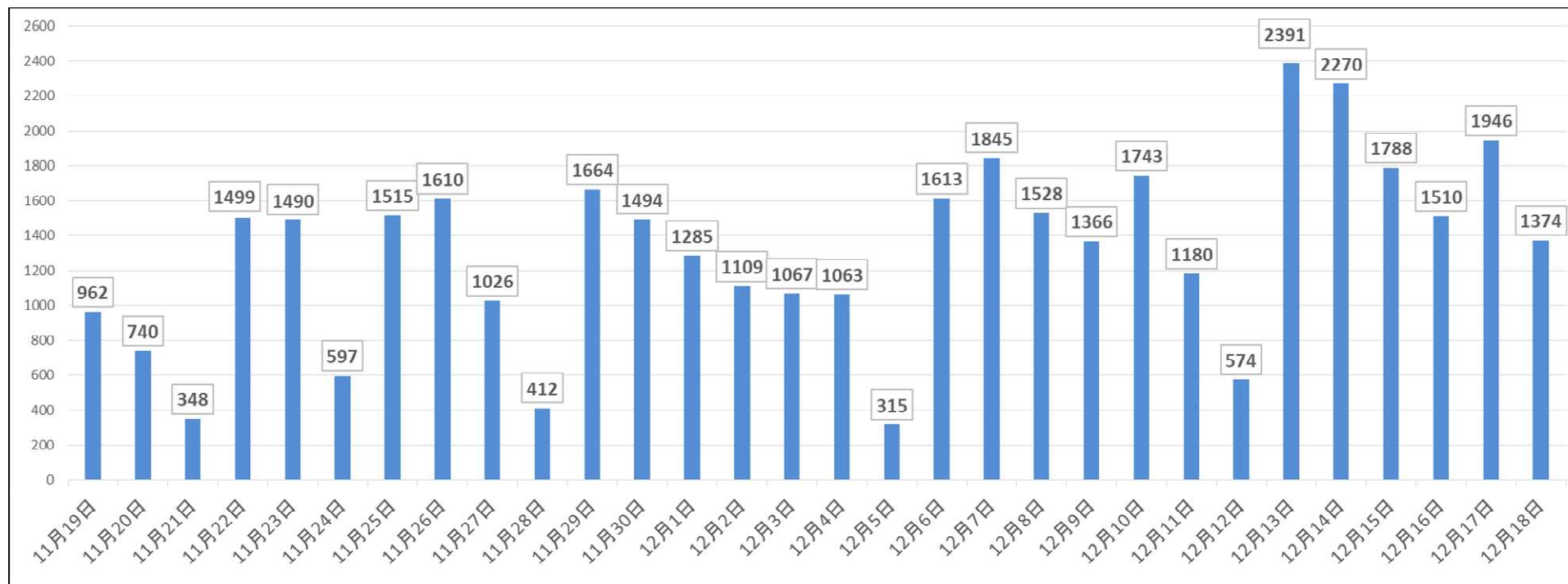
12月20日 健康医療福祉部感染症対策課

1、県内の感染状況について

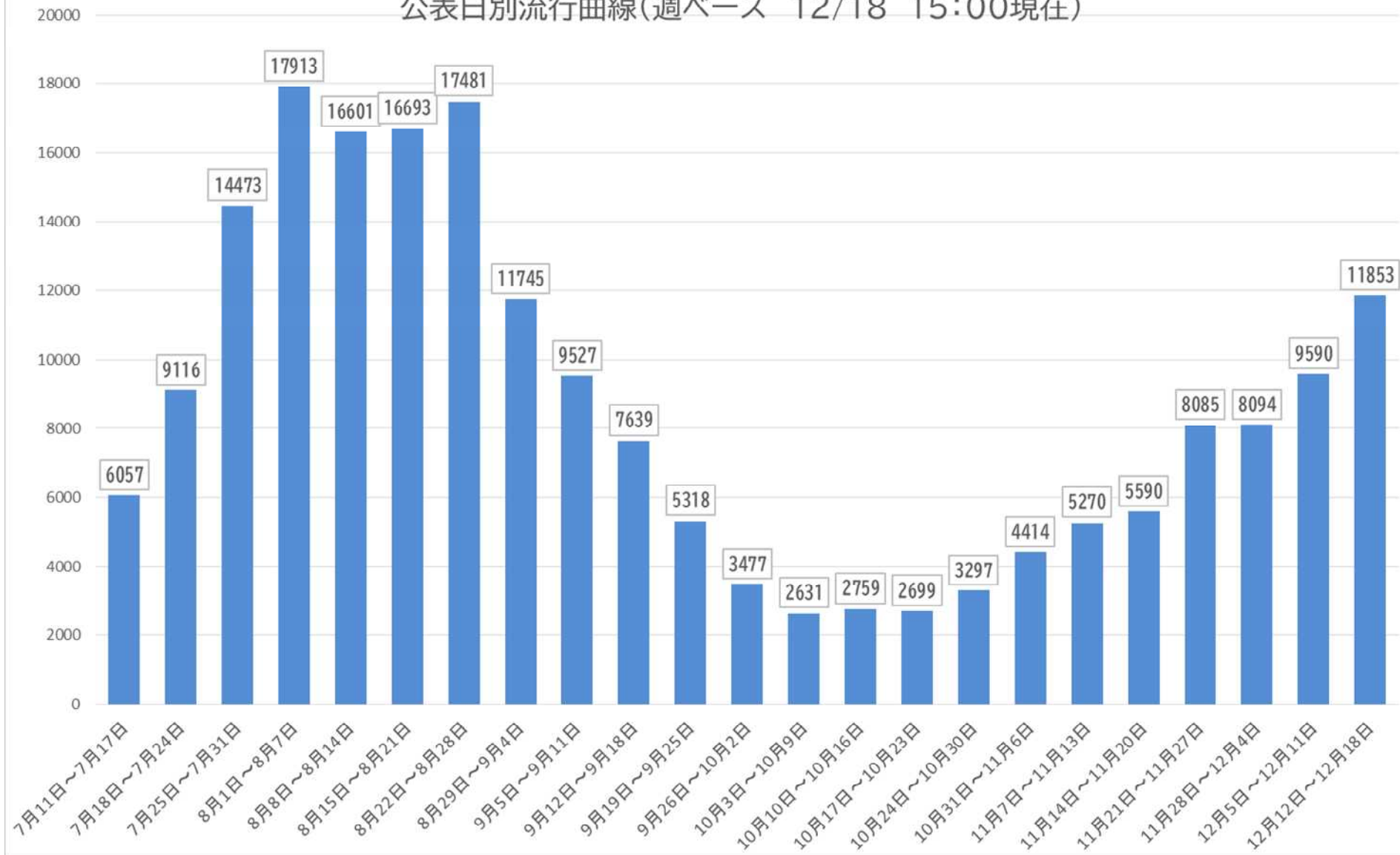
1) 県内の陽性者発生状況

	新規感染者数
今週の報告数(12/12~12/18)	11,853人
累計(12/18現在)	298,723人

2) 公表日別感染動向(12/18現在)



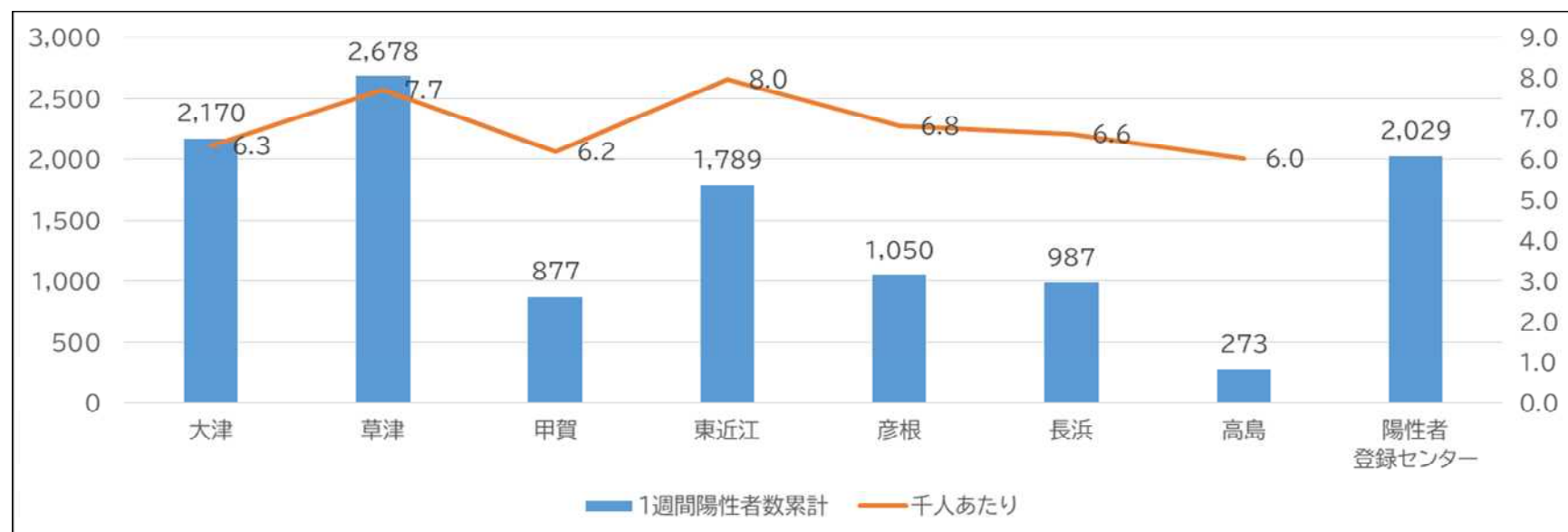
公表日別流行曲線(週ベース 12/18 15:00現在)



3)医療圏別の陽性者発生状況(12/18現在)

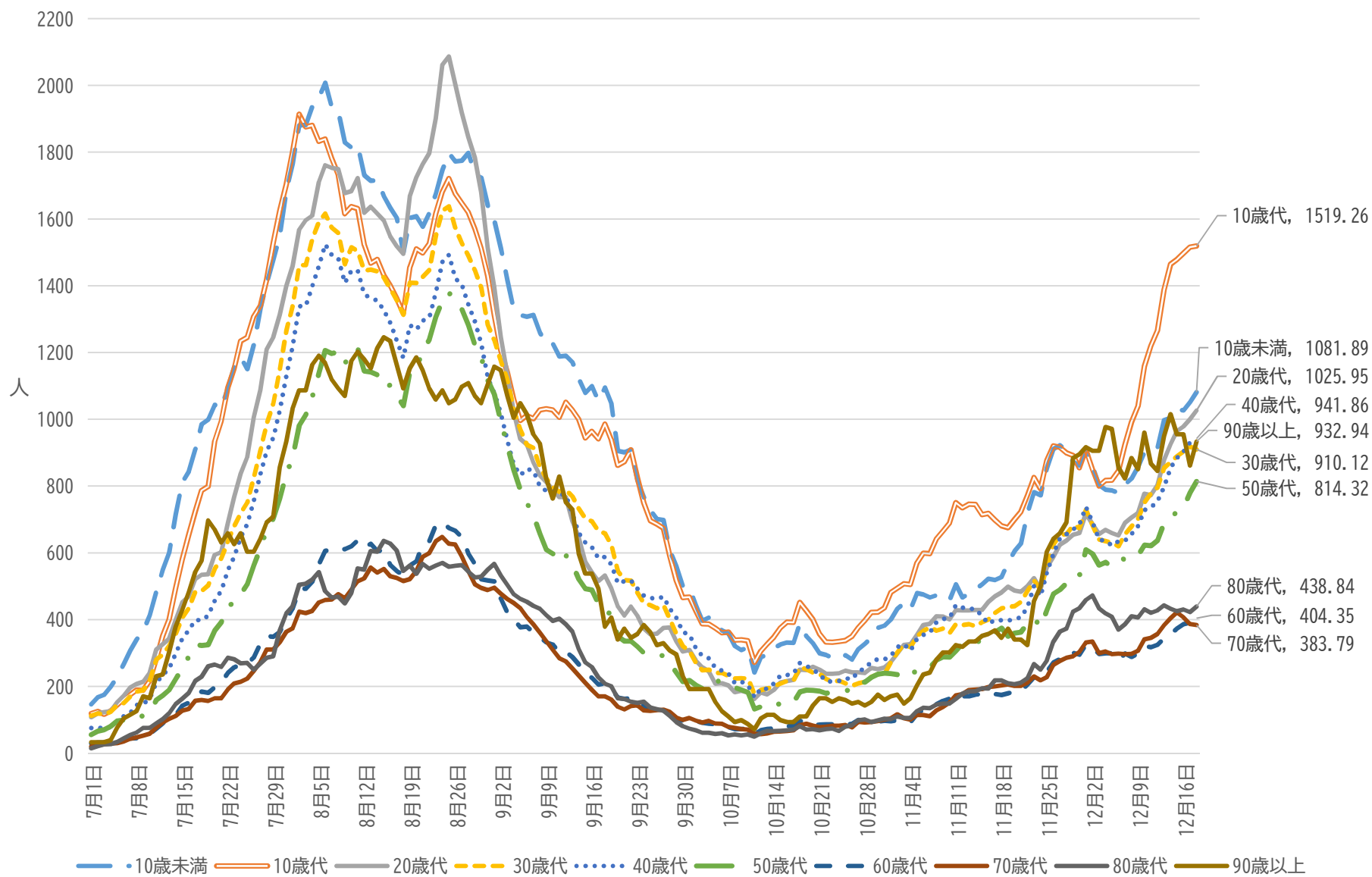
※報告医療機関の所在地別集計であり、実際の患者の居所と一致しない場合があります。

	大津 (大津市)	草津 (草津市・守山市・ 栗東市・野洲市)	甲賀 (甲賀市・湖南市)	東近江 (東近江市・近江 八幡市・日野町・ 竜王町)	彦根 (彦根市・愛荘町・ 豊郷町・甲良町・ 多賀町)	長浜 (長浜市・米原市)	高島 (高島市)	陽性者 登録センター	合計
12月12日	125	55	30	9	42	65	15	233	574
12月13日	310	640	187	398	250	223	73	310	2,391
12月14日	499	529	169	306	231	181	30	325	2,270
12月15日	379	390	140	304	140	162	25	248	1,788
12月16日	282	351	80	193	112	87	72	333	1,510
12月17日	293	425	178	355	170	162	32	331	1,946
12月18日	282	288	93	224	105	107	26	249	1,374
合計	2,170	2,678	877	1,789	1,050	987	273	2,029	11,853

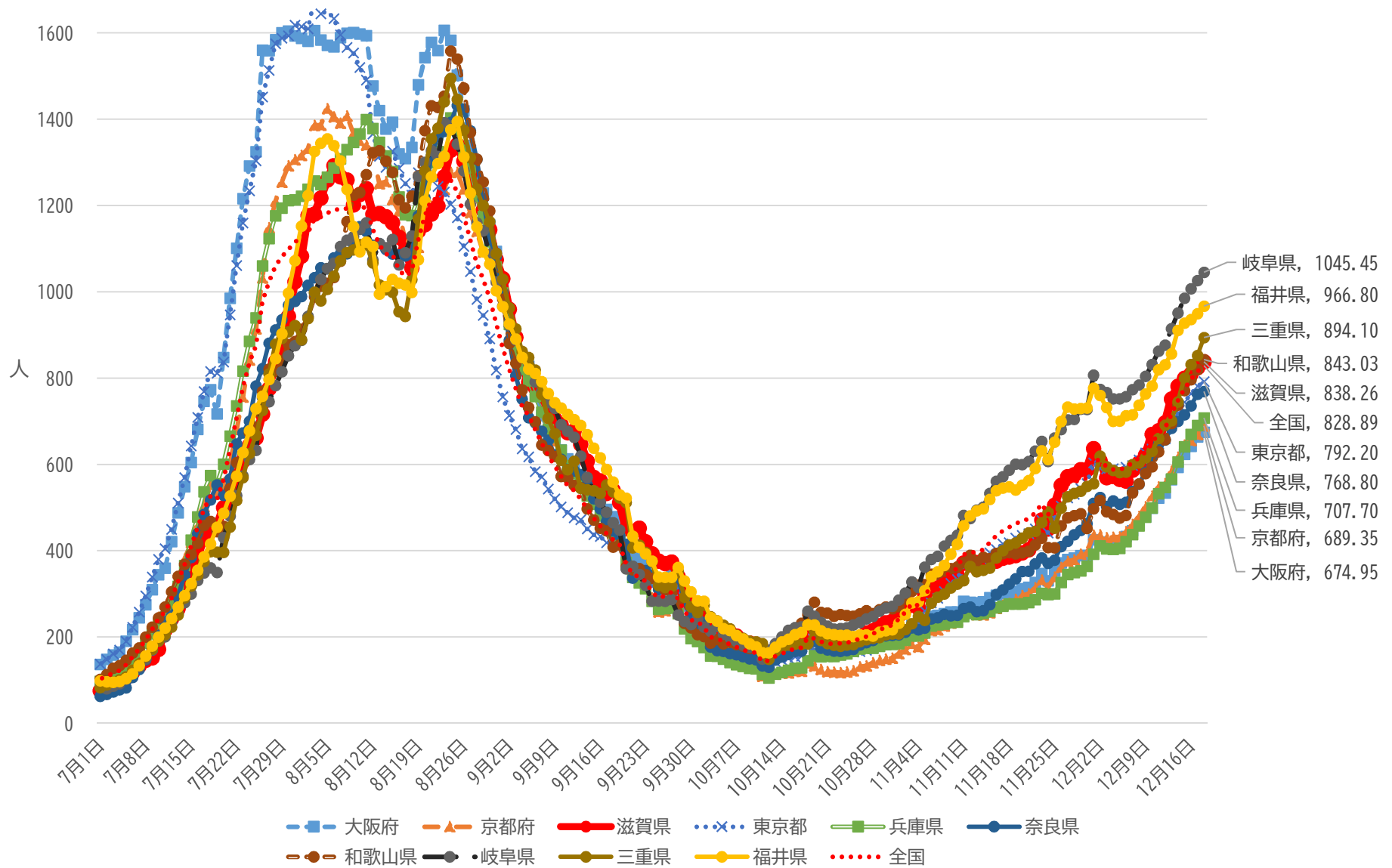


4) 年代別 10万人あたりの新規感染者数推移

(公表日 直近7日間の累計患者数) (R4.7/1-12/18)



5) 近隣府県等の10万人当たりの新規感染者数の推移 (直近7日間の累計患者数) (R4.7/1-12/18)



2、県内の感染状況・各指標の状況について(12/18現在)

1)県内の病床数および宿泊療養施設の状況

病床数	入院者数			空床数
		県内発生	その他	
493	384	374	10	109

宿泊療養 部屋数	療養者数			その他	空数
		県内発生	県外発生		
518	101	101	0	45	372

2)県内の陽性者発生状況

陽性者累計	入院患者 (県内発生)				死亡
		軽症	中等症	重症	
298,723	374	240	131	3	436

重症:ICUに入室または人工呼吸器・ECMO(体外式膜型人工肺)が必要
 中等症:酸素投与が必要

3)各指標の状況

現時点の確保病床の占有率※1	77.9%
最大確保病床の占有率(レベル判断指標)※2	76.6%
うち重症者用病床の最大確保病床の占有率(レベル判断指標)※3	5.8%
直近1週間における人口10万人当たりの新規報告数	838.3人
直近1週間と先週1週間の陽性者数の比較※4	多い
直近1週間のPCR等陽性率※5	81.6%
PCR等検査数(直近1週間分)	14,041件
PCR検査数(累計)	1,130,125件

※1 現時点の確保病床の数、493床に対する割合

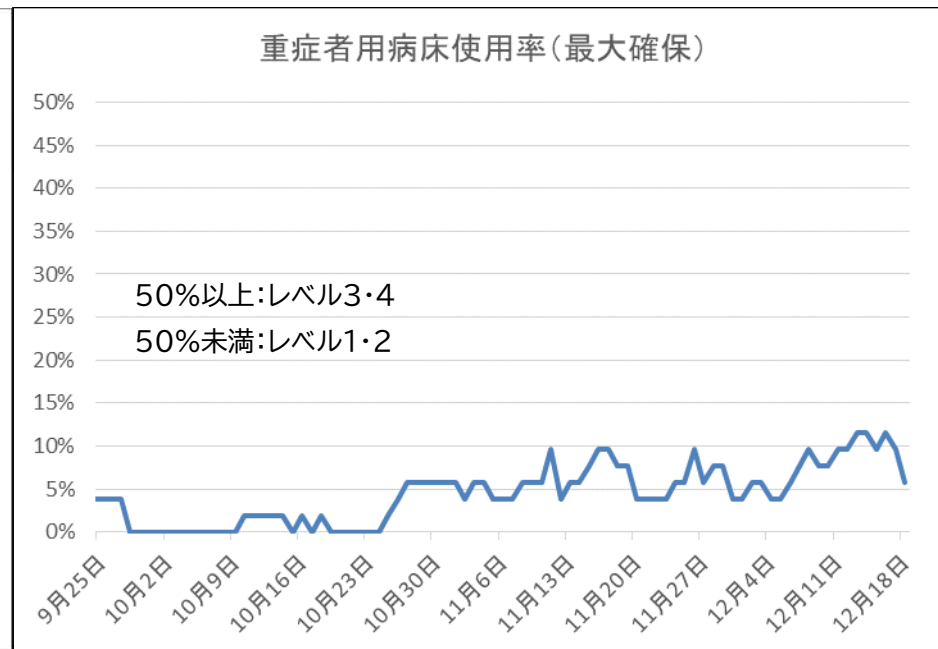
※2 ピーク時に確保予定である病床数、501床に対する割合

※3 ピーク時に確保予定である病床数、52床に対する割合

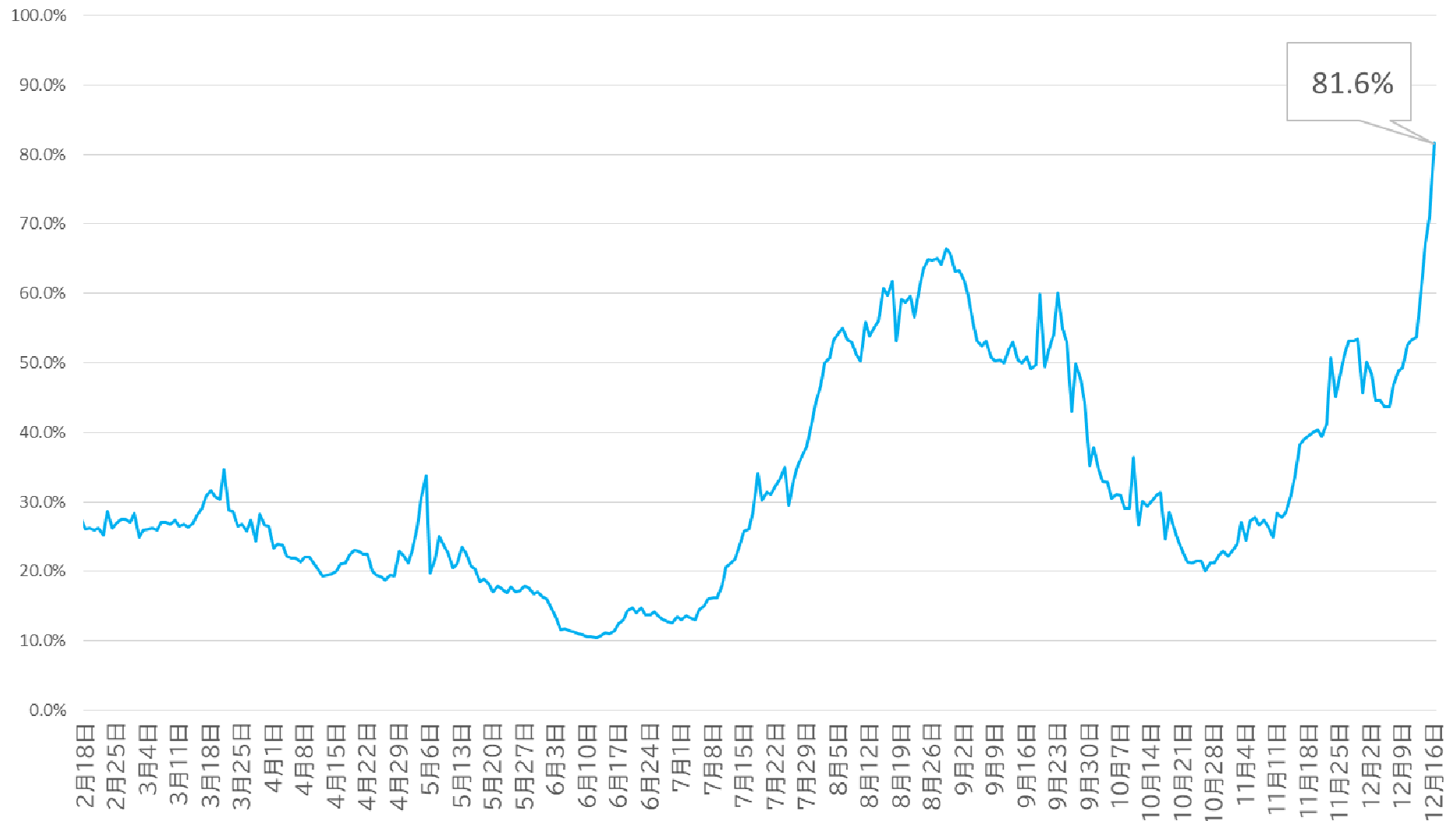
※4 直近一週間の陽性者数が先週一週間に比較し多いか少ないか記載

※5 報告受領件数(抗原検査を含む)に基づく陽性率(自己検査・無料検査は含まない。)

4)各レベル判断指標の推移

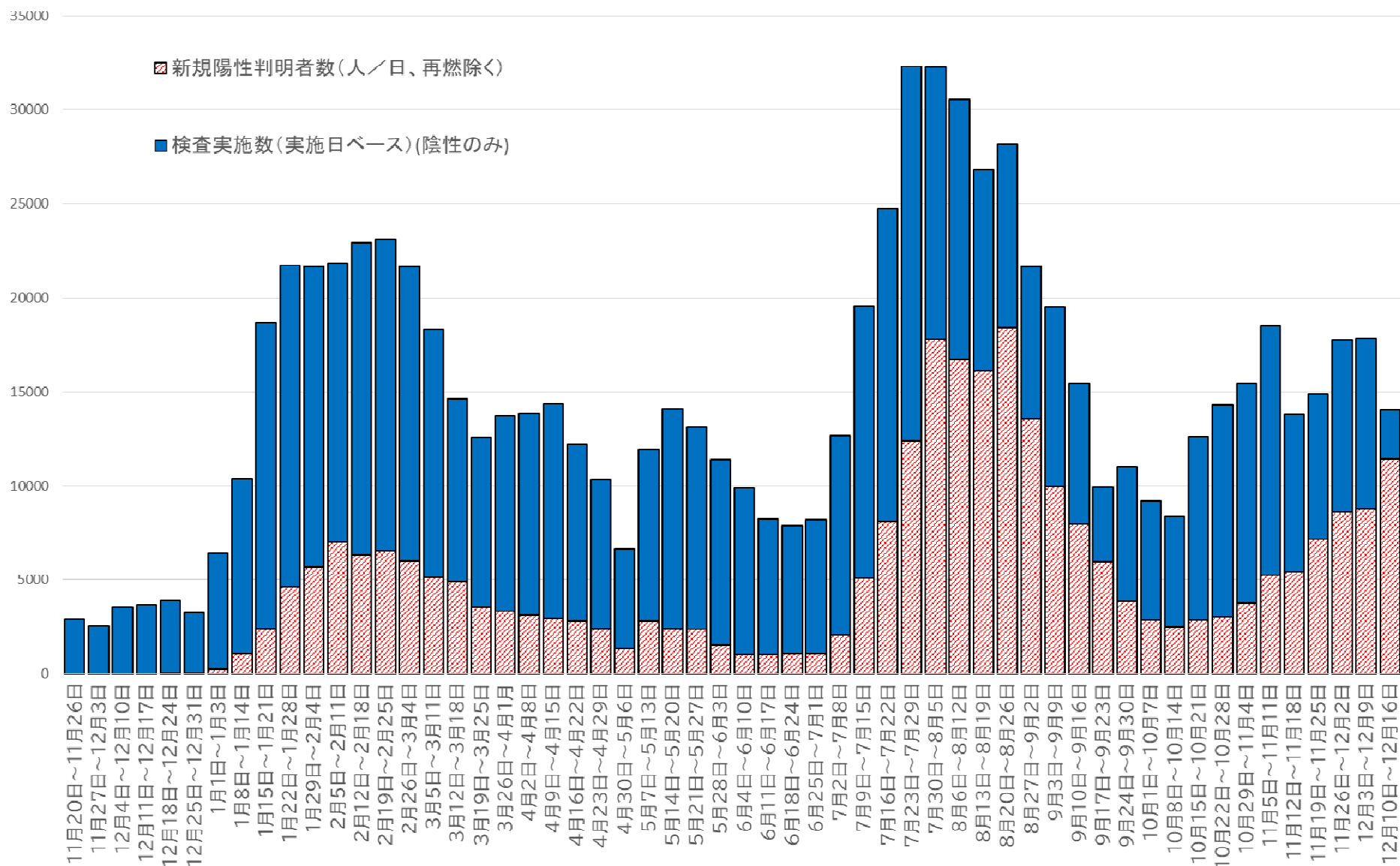


5)陽性率の推移(7日間移動平均)



陽性率の7日間の移動平均（その日までの7日間の平均）を見ると、12月16日現在の陽性率は81.6%でした。※検査実施日ごとの報告件数（抗原検査を含む）に基づく陽性率

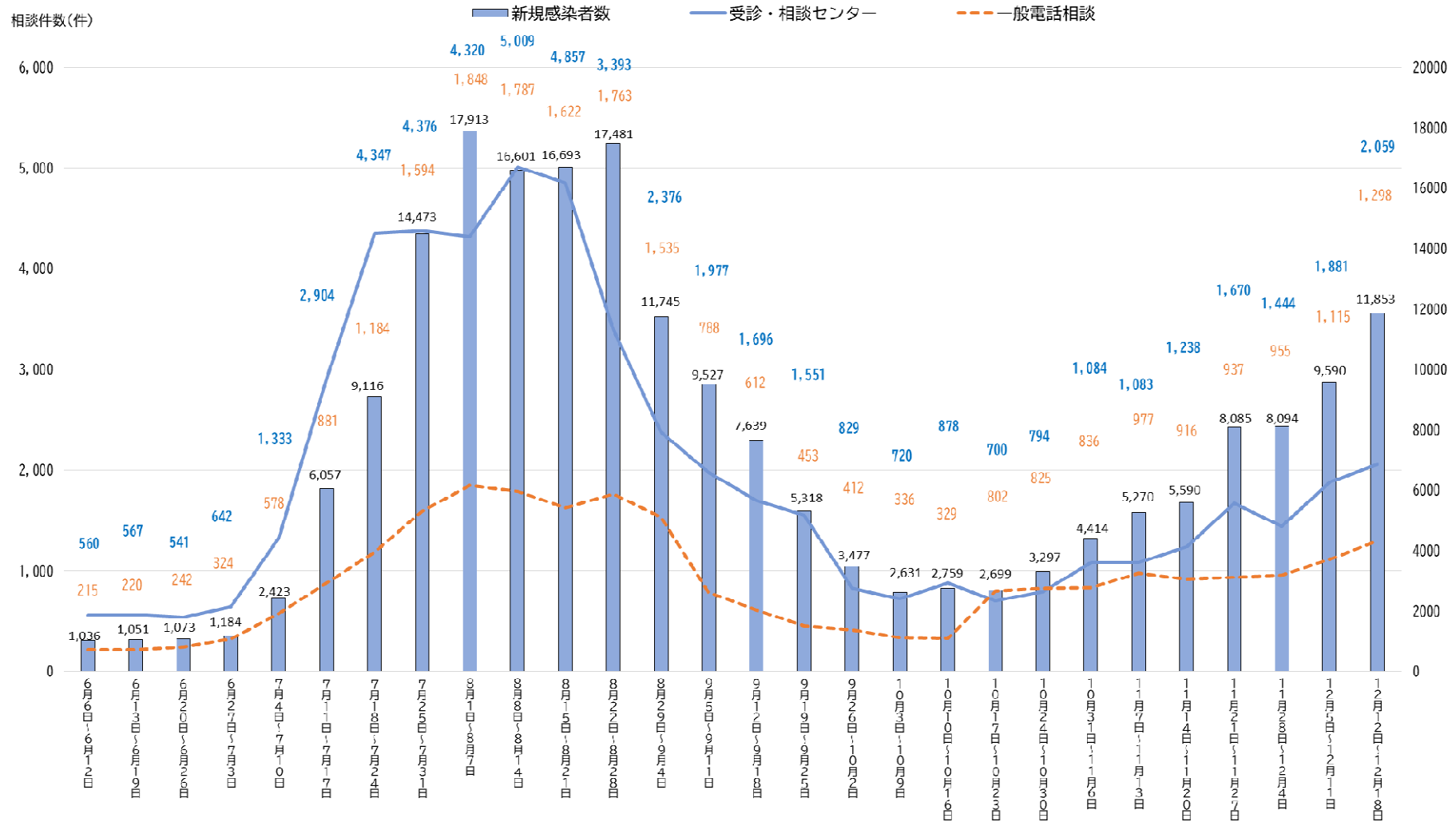
6)PCR等検査の状況(陰性確認を除く)



7) 相談体制について

相談件数と新規感染者数（週計）

新規感染者数(人)



変異株にかかるゲノム解析状況について

■全国の状況について

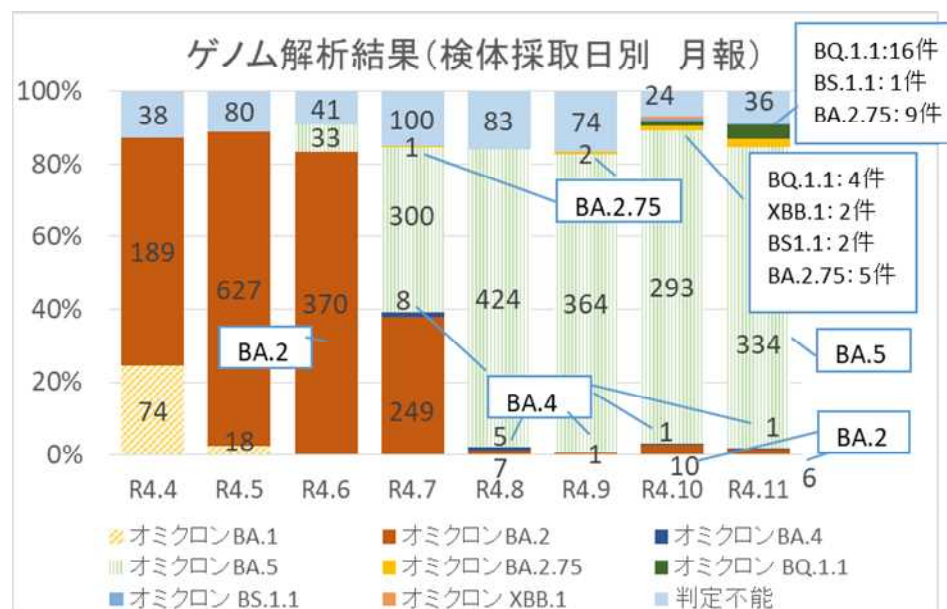
感染・伝播性の増加や抗原性の変化が懸念される新型コロナウイルス(SARSCoV2)の変異株について(第22報)(2022年11月18日 国立感染症研究所)抜粋

【BA.5系統、BQ.1系統、BS.1系統】

- オミクロンの中では多くの亜系統が発生しているが、BA.5系統が74.5%、BA.4系統が4.1%、BA.2系統が7.3%(いずれも亜系統を含む)と、引き続き世界的にBA.5系統が流行の主流となっており(WHO,2022a)、日本国内でも2022年7月頃にBA.2系統からBA.5系統に置き換わりが進み、現在もBA.5系統が主流となっている。
- 世界各地でBA.2系統やBA.5系統を起源とする亜系統が多数発生し、それらの有するスパイクタンパク質の変異から、中和抗体からの逃避能の上昇が懸念されている。局所的に優位な増加をみせる亜系統も報告されているが、特定の変異株が世界的に優勢となる兆候は見られない。
- BQ.1系統およびBS.1系統、XBB系統ともに、中和抗体からの逃避が示唆されているが、国内外での報告数が少ないことから、感染者数増加の優位性、重症度、治療薬の有効性への影響についての明らかな知見はなく、今後の国内外での検出状況、感染者数や重症者数の推移を注視する必要がある。

■滋賀県内の状況について

- 令和4年7月21日に県内で初めてBA.5系統が確認され、12月13日時点で計1,748件が確認されている。
- 本県では、4月1日から12月13日までに4,980件のゲノム解析結果が判明しており、うちBA.5系統は、7月時点で45.6%であったところ、8月時点で81.7%、11月時点で82.9%を占めるなど、感染の主流系統がBA.2系統からBA.5系統に置き換わっている。
- 本県でもBA.2系統やBA.5系統を起源とする亜系統(BA.2.75、BQ.1.1、BS.1.1、XBB.1)が確認されているが、BA.5系統からの置き換わりが生じている兆候はみられていない。
- 引き続き、検出状況に注視する必要がある。



評価(12/12~12/18の感染状況)

- 全国の新規陽性者数は、増加傾向が続いており、増加幅が大きくなってきています。
- 本県でも12月18日時点で今週先週比は1.24、直近1週間における人口10万人当たりの新規報告数は838.3人（先週より160.1人増）と増加傾向が見られています。年代別では、全ての年代で増加しており、特に10歳代での増加が顕著に見られます。10歳代から他の年代への感染拡大が懸念されます。
- 最大確保病床に対する占有率は12月18日時点で76.6%と、先週と比較して10%以上増加しており、高い水準が続いています。重症病床の占有率は5.8%と低い水準で推移しています。
- 年末年始にかけて、人との接触場面が多くなるため、更なる感染拡大が懸念され、更なる医療のひっ迫を招く恐れがあります。改めて、場面に応じたマスク着用、常時換気、手指消毒など基本的な感染対策は継続してお願いします。高齢者等ハイリスクの方との関わりがある方は、より慎重に感染対策を実施するようにしてください。
- 令和5年1月16日まで「年末年始ワクチン接種促進強化期間」です。ワクチンの効果は徐々に減弱するので、オミクロン株対応ワクチンを接種していない方は、この期間にもう1回のワクチン接種を検討してください。インフルエンザワクチンとの同時接種も可能です。
- 冬期にインフルエンザとの同時流行が懸念されています。本県の第49週(12/5~12/11)のインフルエンザ定点医療機関当たりの報告数は0.20と低い水準となっています。県外の一部地域では定点当たりの報告数が1を上回ってきているため、今後の動向に注視が必要です。